**京舞　タブレットコンテンツ**

次のパフォーマンス：

は、京都発祥の伝統的な日本舞踊の一種です。

ほとんどの人は、やの演技を見ることで京舞を体験します。

「」は座敷で舞や歌、音楽、遊びによってお客様を楽しませる伝統的な舞台芸術家です。

他の地域では、はと呼ばれます。はになるために修行をしている若い練習生です。

この公演では、京舞は通常、という地区のによって披露されます。

祇園甲部の芸妓と舞妓は18世紀にかけて形成された京舞井上流の稽古をしています。

その比較的に平和だった時代に、多くの演劇や舞踊芸術が栄えました。

流は、という、お客様が歌や舞踊を楽しむ小さな客間で発展しました。

流は、能に影響を受けており、能の緻密で意味深な、統制された動きの影響を受けています。

また、井上流は宮廷で行われた舞踊の優雅な動きも取り入れました。

まずは夜の最初の魅力的な舞をお楽しみください。

は、優美な女性らしい動きと、物語を語り、優雅に感情を表現する舞で知られています。

標準的な扇子に加えて、舞手は時々、細長い布、提灯、傘、またはその他の小さな小道具を使用します。

1つの小道具で様々な物を表すことができます。例えば、扇子はお茶を注ぐ様子を真似ることができます。

は、歌との音楽が伴奏します。

若い女性がになると、彼女たちの修行には、舞だけでなく他のさまざまな伝統芸能が含まれます。

舞妓たちはほとんど毎日お稽古をしており、それには舞や歌、三味線、太鼓、笛、箏の練習などがあります。

数年間、練習生として過ごした後、舞妓は芸妓になります。

舞踊を専門とするとを「」、音楽を専門とする芸妓と舞妓を「」と呼びます。

になってからも、彼女たちは稽古を続け、技を磨き続けています。

それでは、名曲、「祇園小唄（祇園の歌）」を英語歌詞とともにお楽しみください。

以下は直訳ではありませんのでご注意ください。

**祇園小唄**（祇園の歌）

東山に霞む月がかかる。

夜毎、かすむ提灯の明かりが、赤く染まる桜を照らし、まるで夢のように甘い。

恋心がなだらかに垂れる着物の袖に隠れている。

祇園恋しや、祇園恋しや…ああ、揺れる長いよ！

夏には、彼女は鴨川で涼む。たそがれ時に照らされるその首はなんと美しいことでしょう！

唇は大文字山の焚き火のように赤く燃え、秘密の涙はぼんぼりの明かりの中で輝く。

祇園恋しや、祇園恋しや…ああ、揺れる長いよ！

鴨川の水が少なくなっている。静かな川のせせらぎに、夕方の鐘が鳴り響く。

秋風は暗闇の中、むき出しでやせ衰えたしだれ柳の間で、泣いている。

祇園恋しや、祇園恋しや…ああ、揺れる長いよ！

丸い窓の外に静かに雪が降る。長い間離れていた恋人たちは、ついに再会する。

つめたい夜の間、提灯の明かりに影が舞う。

彼らが共にする枕のそばで聞こえる、川千鳥のさえずりは、恋人たちがすぐにまた別れなければならないことを意味している。

祇園恋しや、祇園恋しや…ああ、揺れる長いよ！